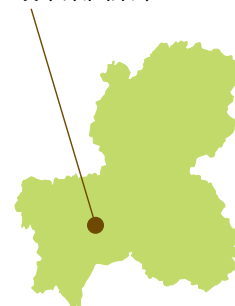


株式会社大雅

※2018年3月現在

代表者名	江崎 雅教	資本金	15 百万円
設立年	1969 年 11 月 13 日	売上高	235 百万円 (2016 年 9 月期)
事業内容	生産 (イチゴ)、消費者直売、加工・製造、観光・交流	経営規模	畑 0.86ha、生産施設 1,600㎡
従事者数	12 人 (うち女性 3 人。女性内訳: 役員 1 人、管理職 1 人、常勤パート 1 人)		
女性活躍支援	[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援] 育児休業代替要員を確保 [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係 (休憩室・屋内・野外トイレ)、重労働等の業務改善		

岐阜県山県市



経営概況

株式会社大雅は、岐阜市の北隣、山県市で有機肥料・培養土などを製造・販売している肥料メーカーである。創業は1890年と歴史は長く、肥料の製造は1987年から手がけている。

イチゴ栽培に40年以上関わってきた実績を元に、肥料・培養土は当初からイチゴ栽培用にしぼり込み、併せて生産指導を行いながら契約農家を増やしてきた。契約農家は岐阜・愛知・静岡など中部地方を中心に400軒以上、海外でのイチゴ栽培指導も行っている。

2012年頃から「イチゴの観光農園ができるよう指導してほしい」との依頼が来るようになり、



成功に導いたことをきっかけに、代表取締役の江崎雅教氏は「自社で観光農園を運営したい」と考えるようになった。

総務省の交付金「地域経済循環創造事業」に応募して採択され、この交付金を使って2015年1月、山県市てんこもり農産物直売所の隣接地に、同市初のイチゴ狩り農園「やまがたいちご楽園^{みやび}雅」をオープンした。女性の力を活用し、2015年度の売上は700万円、2016年度1,000万円、2017年9月期には1,300万円に達した。

1. 経営者の理念・意識改革

雅教氏は「健全な土づくりは、健全な農産物を生む。土を守り、土を健全にして、安心・安全な作物を作る」という思いを持って肥料を作り、農家に提供してきた。農家と共により作物を作るため、雅教氏の弟で専務の広和氏がイチゴの栽培指導・農業指導を担当。栽培土壌や水質の検査をして植物の状態を把握し、それを元に今何をすればいいのかを農家にアドバイスしている。

雅教氏は、夢として描いていた自社のイチゴ観光農園が軌道に乗り始めたので、「次はイチゴを山県市の名産にしたい」と考えている。

2. 女性が働きやすい環境の整備

イチゴ狩り観光農園「やまがたいちご楽園雅」では、1,600㎡のビニールハウスの中で栽培した2～3品種のイチゴを収穫し、食べ比べもできる。高設栽培なので摘み取りが楽なことは特長の一つで、作業もしやすい。通常の高設栽培は水耕栽培がほとんどだが、有機肥料だけを使った栽培をしているイチゴ狩り園は非常に少ないという。肥料からこだわったイチゴは人気が高く、イチゴ狩り体験の予約は1カ月先まで埋まっている。

2016年9月に元美容師の安田奈津樹氏が入社、同年11月に結婚したことをきっかけに、2017年に就業規則を改定した。育児・介護の規則を新たに追加、休日を本人の家庭にとって都合の良い日に設定することや、季節・仕事内容によって休日の取り方を自由にすることも取り決めた。

安田氏の入社半年後、観光農園の部門長として登用し、収支計画・栽培管理・顧客対応・販売計画の立案・顧客ニーズへの対応などすべてを任せた。また、農業関係のセミナーや交流会への参加も促し、意識の向上とスキルアップに取り組んでいる。

安田氏は2018年1月に出産し、産休・育休後に復帰することになっている。その間は女性パート主体で運営していく。

3. 女性たちが運営する観光農園

雅教氏は、「観光農園では接客はもちろんのこと、女性目線のポップやSNSでのこまめな発信など、女性の視点が大きに役立っている」と断言する。同社の売上が全体的に減少した中で、女性が中心になって運営しているイチゴ農園だけ、売上が伸びた点からも女性の力を感じているという。2017年にはハウスを1棟増設した。

安田氏は「寝ても覚めてもイチゴ」という状態で、イチゴ栽培と体験農園の運営に力を入れてき

た。同社の肥料の効果も相まって、観光農園で栽培したイチゴは、「糖度が高くておいしい」と人気がある。隣の直売所に出せばすぐ売り切れるが、イチゴ狩り客のために必要な量を予測して確保したうえで収穫することが求められており、その加減が難しい。「バランスよく収穫できたときに、達成感を感じる」と安田氏は話す。

観光農園の来場者は3年で1.5倍に増え、年間約1万人がやってくるようになった。遠方からの観光客だけでなく、周辺の農家や住民にも人気があり、口コミが新たな顧客の紹介にもつながっている。好調な運営状況を見て、女性中心の運営方法を学びたいという研修依頼が入るようになった。

4. 地域・社会への貢献

観光農園には年間1万人の来客があり、隣り合う直売所の売上増加にも寄与している。観光資源が少ない山口市にとって、大きな力となっている。

安田氏は地域の行事や懇親会に積極的に参加し、地域との交流を図っている。また、山口市主催する就農体験の受け入れや、地域のお見合いパーティーを農園で受け入れるなどの取り組みも行っている。

審査委員の声

(株)大雅はもともと肥料メーカーであり男性中心の職場だった。イチゴ栽培・観光農園成功は社員安田奈津樹氏や女性パートの活躍によるところが大きい。安田氏は2018年1月出産。「社員ひとりひとりのつながりがあり良くしてもらい感謝している。育休後は復帰したい」と語る。安田氏採用と同時に、女性が働きやすい就労環境整備を行った点が大きく評価できる。「働きたくなる」経営体である。また彼女の笑顔に会いたい。